

環境調査結果のお知らせ

令和6年9月25日12時から浦ノ内湾の環境調査を実施しました。

概況

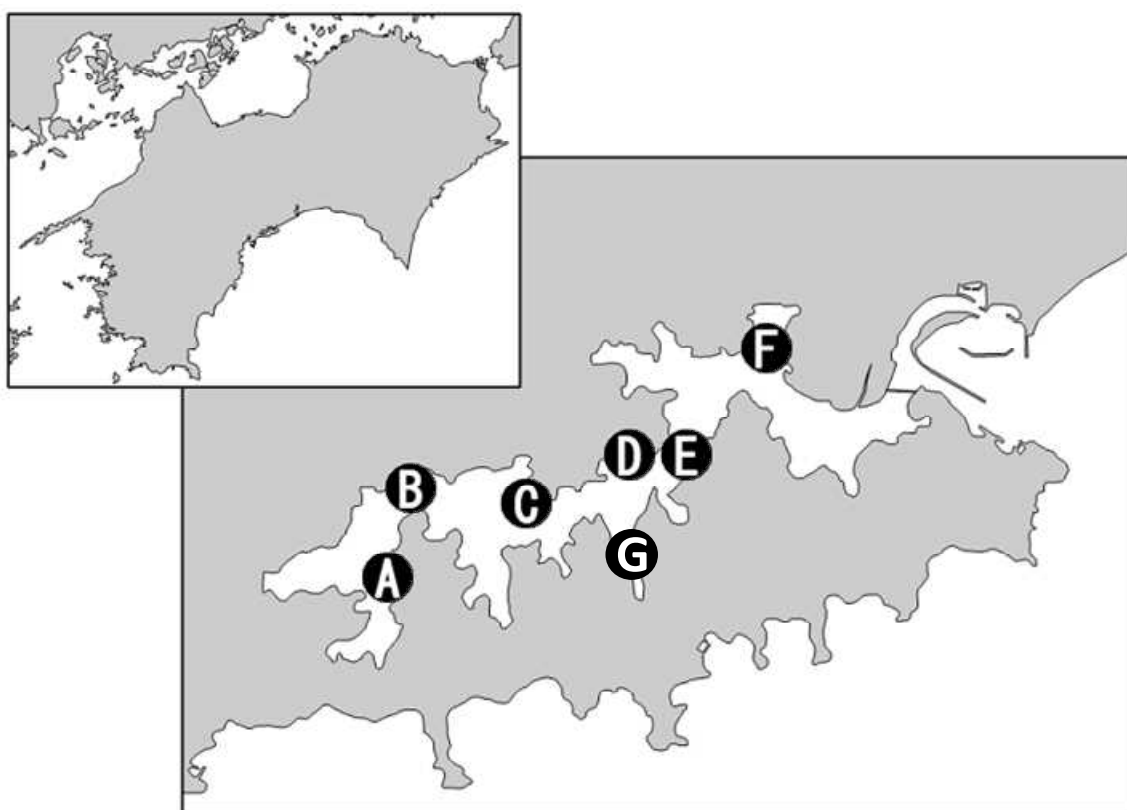
検鏡の結果、魚類に対して有害なシャットネラ属が最高で3,050 cells/mL、タカヤマ属が最高で180 cells/mL確認されました。また、二枚貝に対して有害なヘテロカプサ・サーキュラリスカーマが最高で4,500 cells/mL確認されました。シャットネラ属及びヘテロカプサ・サーキュラリスカーマは漁業被害が想定される細胞密度を超えていますので、十分注意してください。

また、複数の定点で湾外の海水が底層に侵入した形跡がみられました。すでに湾奥及び養殖漁場の水深5 m層では溶存酸素量が低下しています。今後、さらに中層の溶存酸素量が低下するおそれがありますので、十分注意してください。

海や養殖魚、貝類の状態に不安や変化を感じた時は、良く洗ったペットボトルに海水を汲むなどして、水産試験場か中央漁業指導所まで連絡してください。

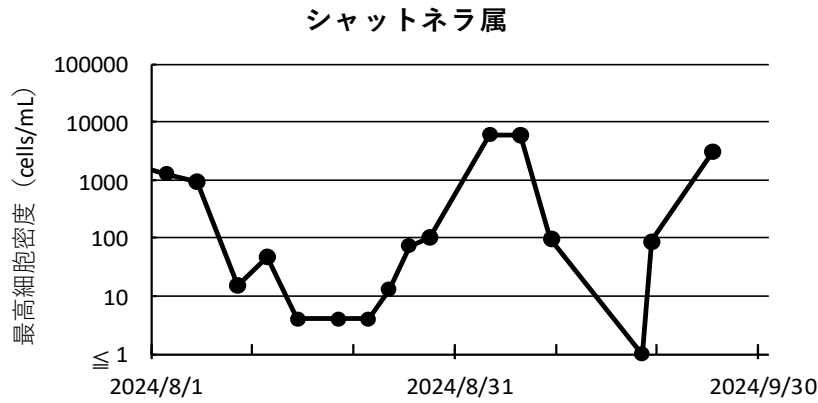
調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン			
	深度 (m)	水温 (°C)	塩分	溶存酸素 (mg/L)	シャットネラ 属	ヘテロカプサ・ サーキュラリスカーマ	タカヤマ 属	珪藻
A 鳴無 (2.8m) 【12:19】	0	29.1	27.3	8.6	2	50	20	-
	2	30.0	28.6	8.6	28	100	20	-
	5	29.6	29.5	0.1	400	0	8	-
	底層 8.5	29.2	30.0	0.0	4	0	0	-
B 中学校前 (1.7m) 【12:26】	0	29.2	27.3	9.3	0	0	0	27,700
	2	29.1	27.6	9.3	69	0	0	10,100
	5	29.7	29.4	0.4	620	0	0	200
	10	28.6	30.1	2.8	2	0	0	40
底層 12	28.5	30.3	3.7	1	0	0	80	
C 目ノクソ (1.6m) 【12:37】	0	29.4	27.4	14.0	3,050	260	70	-
	2	29.2	27.7	11.1	800	120	60	-
	5	29.4	29.5	1.4	16	4	0	-
	10	28.5	29.9	3.1	2	0	0	-
底層 13.5	28.3	30.5	3.7	0	0	0	-	
D 光松 (1.7m) 【12:59】	0	29.4	27.6	12.7	1,580	240	100	5,900
	2	29.2	28.0	11.0	1,820	260	40	1,560
	5	28.9	29.2	3.6	48	9	2	200
	10	28.0	29.7	5.3	11	0	0	80
底層 16.5	27.9	30.3	5.4	16	0	0	10	
E 大鹿 (1.7m) 【13:07】	0	29.3	27.7	13.5	480	180	180	-
	2	29.2	28.6	12.1	1,640	50	50	-
	5	29.0	29.2	3.6	160	8	8	-
	10	28.1	29.7	5.3	26	1	1	-
底層 16.5	27.7	30.2	5.5	4	0	0	-	
F 水試小割前 (2.7m) 【13:16】	0	29.2	28.0	9.1	3	20	160	-
	2	28.8	28.2	9.2	130	40	160	-
	5	28.1	29.3	7.3	60	100	0	-
	底層 10	27.7	-	3.9	0	0	0	-

調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン			
	深度	水温	塩分	溶存酸素	シャットネラ	ヘテロカプサ・ サーキュラリスカーマ	タカヤマ	珪藻
	(m)	(°C)		(mg/L)	属		属	
G 福良 (1.8m) 【12:54】	0	29.1	8.6	11.9	580	120	110	-
	2	29.2	28.1	10.7	500	4,500	60	-
	5	29.4	29.5	1.6	2	0	5	-
	底層 10	28.6	30.0	3.3	0	0	0	-

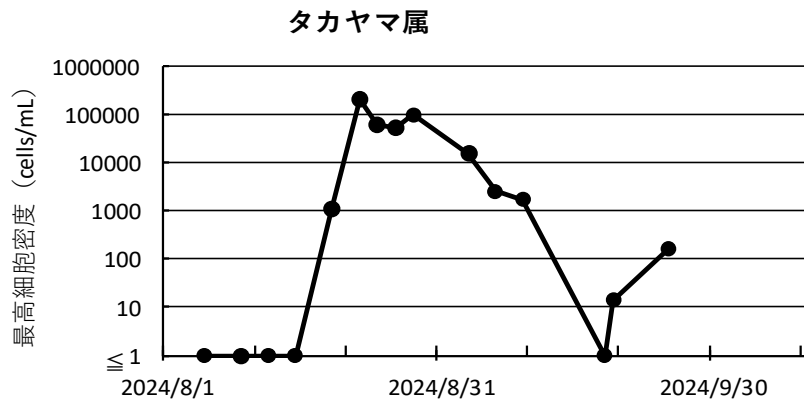


- A: 鳴無
- B: 中学校前
- C: 目ノクソ
- D: 光松
- E: 大鹿
- F: 水試小割前
- G: 福良

令和6年度 浦ノ内湾におけるシャットネラ属の最高細胞密度の推移



令和6年度 浦ノ内湾におけるタカヤマ属の最高細胞密度の推移



参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準 (※1)	警戒基準 (※2)	主な赤潮発生時期 ※3		
				浦ノ内湾	野見湾	宿毛湾
<i>Karenia mikimotoi</i> (カレニア・ミキモトイ)	魚類等のへい死	100 cells/mL	1,000 cells/mL	5~8月	6~8月	—
<i>Chattonella</i> spp. (シャットネラ属)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	6~8月	—	—
<i>Cochlodinium polykrikoides</i> (コクロディニウム・ポリクリコイデス)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	—	2~4月	5~6月
<i>Heterosigma akashiwo</i> (ヘテロシグマ・アカシオ)	魚類等のへい死	5,000 cells/mL	50,000 cells/mL	3~12月	4~8月	4~11月
<i>Dictyocha</i> spp. (ディクテオカ属)	魚類等のへい死	—	5,000 cells/mL	6~7月	4月	—
<i>Takayama</i> spp. (タカヤマ属)	魚類等のへい死	—	10,000 cells/mL	8~9月	—	—
<i>Heterocapsa circularisquama</i> (ヘテロカプサ・サーキュラリスカマ)	二枚貝のへい死	—	500 cells/mL	8~11月	—	—
<i>Alexandrium</i> spp. (アレキサンドリウム属)	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	—	1~4月	3~5月
<i>Gymnodinium catenatum</i> (ギムノディニウム・カテナータム)	二枚貝の毒化	—	1 cell/mL	—	—	2~7月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。